

CD-ROMを利用したマルチメディアプレゼンテーション

Multimedia Presentation using CD-Roms

阪本 麻琴 (同志社大学) 正 廣安 知之 (同志社大学) 正 三木 光範 (同志社大学)

Makoto SAKAMOTO Tomoyuki HIROYASU Mitsunori MIKI

Doshisha University, Tatara-Miyakodani 1-3, KyoTanabe-shi, Kyoto

tf0073@mail4.doshisha.ac.jp, tomo@is.doshisha.ac.jp, mmki@mail.doshisha.ac.jp

Key Words: Multimedia, Presentation, CD-ROMS, Power Presentation, Network Presentation

1. はじめに

近年コンピュータがハードウェア・ソフトウェアの両面において急速にその性能を向上させている。また同時に数年前では考えられないような価格の低下も進んでいる。このような環境下でコンピュータの利用が様々な面で進んでいるものと考えられる。その一つが講演や報告、その他で行われるプレゼンテーションであろう。プロジェクトの普及やプレゼンテーションソフトの利用者が増大することによりコンピュータの利用したプレゼンテーションが行いやすくなりプレゼンテーションの中味も多様化が図られている。それに伴い学会などで行われているプレゼンテーションの方法も徐々に変わりつつある。

本研究では、現在のプレゼンテーションのあり方および次世代のプレゼンテーションはどのようなものになると考えられるかについてまず概説を行う。次世代のプレゼンテーションにおいては大容量のデータをプレゼンテーションの場で加工することが特徴の一つとなるがそのデータの蓄積や転送を満足に処理するにはハードウェアやネットワークなど多くの課題を克服しなければならない。その問題解決するまでの間に代替メディアとしての候補の一つがCD-ROMであろう。CD-ROMには大容量、低価格、持ち運びの行い易さなど多数の特徴がある。そこで本研究ではその次世代のプレゼンテーションにおいてCD-ROMが重要な位置を占めるものと考えられるが、CD-ROMの役割を考察する。

2. 次世代型プレゼンテーション

現在、学会などで行われているプレゼンテーションの形式は、従来行われてきたOHPを使用する方法からコンピュータを利用した方法へと移行しつつある。その理由としては、コンピュータの急速な進歩、優れたプレゼンテーションソフトの出現、形態端末機の性能の向上により、モバイルコンピュータの所有者の増加、学会においてプロジェクトを設置することが多くなったことなどが挙げられる。

これまでのプレゼンテーションではスライドやOHPが使用されてきた。コンピュータを利用したプレゼンテーションでの最初の段階としてはこれらの代替としての利用が考えられる。すなわちスライドやOHPの原稿を作成するには現在多くの場合コンピュータにより作成されているわけだがそのまま原稿を他メディアに出力するのではなくコンピュータから出力すればよいのである。この利用方法ではふんだんにカラーが使用可能なので説得力のある原稿が作成されたり、原稿の変更などをプレゼンテーションを行う間際まで訂正可能であるといったメリットがある。

次の段階としてはこれまでのOHPやスライドでは掲載できなかったような情報をプレゼンテーションで使用すること

が容易となる。すなわち音声や動画が使用可能である。アニメーションなども利用可能であるし発表者がいなくてもファイルさえあれば発表が行えるような場合も想定できる。

さらに続く世代でのプレゼンテーションでは次の2つのプレゼンテーションのあり方が考えられる。すなわちパワープレゼンテーションとネットワークプレゼンテーションである。それらを利用したプレゼンテーションの概念図をFig. 1に示す。

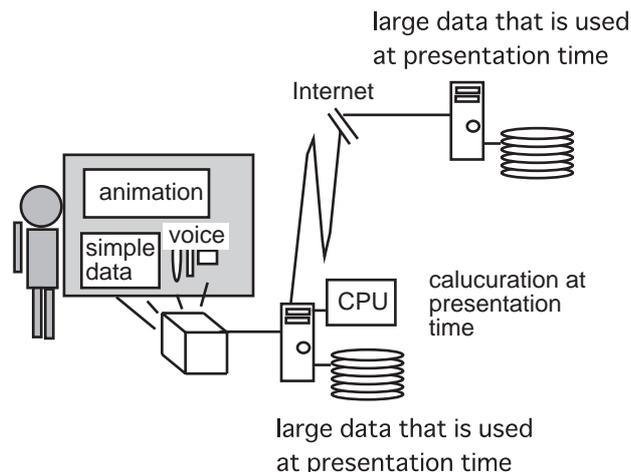


Fig. 1: Overview of next generation type presentation

それまでのプレゼンテーションにおいてはすでに行っている結果を利用してすでに用意された方法で結果を表示していたのに対してパワープレゼンテーションでは発表を行っている最中に結果を作成したり表示方法を変化させたりすることが特徴となる。例えばFig. 2で示すような結果を表示するのではなく解析を実際に行っている様子を示すようなものとなる。表示方法も例えば質問の内容に応じて示すデータの表示させる向きを変えたりレンジを変えたりして表示方法を変更するのである。

一方ネットワークプレゼンテーションはネットワークを介して会場には存在しないデータを利用する。これは持ち運びの点だけに問題があるのではなく、多量なデータを用意しておくことで会場の雰囲気や質問に応じて示すデータの選択の幅を広げることが可能となる。そこではプレゼンテーションだけでなく出版やwebと密接に繋がっていくものと考えられる。例えば、発表したらすぐに自分のweb pageに掲載したりプレゼンテーションの会場でweb pageのデータを利用したりすること、講演論文集やプレゼンテ

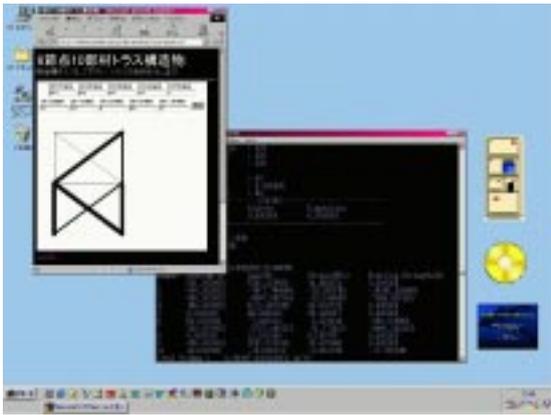


Fig. 2: Calculation desktop

ションとのリンクなどもかんがえられる(1)。

そこではただ単に用意したスライドを示すだけではないため考えられるプレゼンテーションの画像としてはFig. 3に示すようなスライドと各種媒体にアクセスできるようなアイコンからなっていくようになるものと予想される。すなわちコンピュータそのものの作業をプレゼンテーションにて示すこととなり、こういった意味でも計算力学に関連するビジュアライゼーションソフトやCAEアプリケーションは重要となるであろう。

3. CD-ROMを利用したプレゼンテーション

このように次世代のプレゼンテーションではパワープレゼンテーションとネットワークプレゼンテーションが考えられる。しかしながら、パワープレゼンテーションでは大規模なデータが問題となる。すなわちその場で処理しなければならない情報が非常に多い場合には時としてはハードディスクに格納できない場合があるものと考えられる。ネットワークはローカルでは急速に早くなると考えられるがインターネットは早くなれば早くなるだけ使用者と情報量が多くなってしまい結局劇的なスピードの向上は期待できない。よってローカルな場所でのネットワークの利用は今後有効であると考えられるが、インターネットでの情報交換ではまだまだ克服しなければならない問題が多いようである。

このような問題に対して有効であると考えられる一つの方法がCD-ROMを利用する方法である。CD-ROMの特徴としては

- 1) 大容量
- 2) 安い
- 3) ハードディスクに情報が残らない

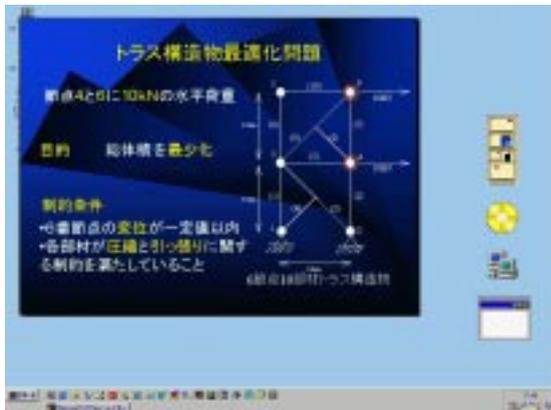


Fig. 3: Power presentation desk top

- 4) 持ち運びに便利
- 5) 各種OSでの読み取りが可能な統一した規格が存在する
- 6) 保存に場所をとらない

特に最近メディアの価格が非常に安い上に大容量であることと持ち運びに便利であること、例えば会場に設置されたコンピュータに携帯したデータが残らないなどといったメリットは非常に学会などの講演会でのプレゼンテーションの際の利用に向いていると考えられる。

本計算力学講演会では講演論文集の付録としてCd-ROMの配布を行っている。通常CD-ROMの作成は講演論文集の代替となるものとして作成される。しかしながらそこには

- 1) 講演会会場で原稿を参考にする事ができないため非常に不便である
- 2) ただ単に講演論文集の代替としてではCD-ROMの作成のメリットがない
- 3) 講演論文集の形式の移行ではCD-ROMの大容量性と安価という特性が発揮されない

などといったようにCD-ROMの利点が有効に活用されていないためそれほど有益なものが作成されていなかった。それに対して本講演会では次のような特徴をもつCD-ROMが作成されている。

- 1) 講演論文集にはのせることができなかったようなカラーや動画のデータ
- 2) 講演論文集の論文の枚数制限により十分に説明できなかった
- 3) 講演の際に使用するデータの掲載
- 4) 講演には直接関係ないが関連するデータ
- 5) ホームページなどの紹介

これらのデータを掲載することにより

- 1) 講演論文集の欠点を補う
- 2) 講演の際に使用する
- 3) 講演論文集だけでなく講演後にも有効に利用できるデータが掲載される

これにより講演会の開催期間中および終了後も有効にCD-ROMが活用されるものと思われる。

4. おわりに

現在のプレゼンテーションと次世代型のプレゼンテーションの一つの形について概略した。またその中でどのようにCD-ROMが使われて行くかを考えるためにCD-ROMの利点をまとめ本講演会の付録として作成されたCD-ROMの概要についても触れた。

参考文献

- (1)三木, 並列分散最適化の最近の研究動向, 第3回最適化シンポジウム講演論文集, (1998), pp. 47.

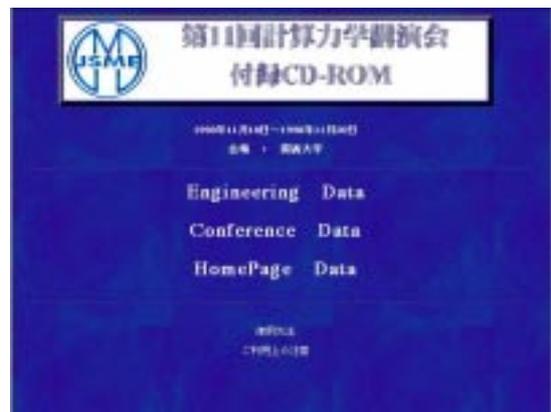


Fig. 4: Top page of cd-rom